

ヒモ引トヲシ上ニテ結ブ、寛永ノ比、若女ノカムリシ時ハ引通シタリ。

〔走衆故實〕一走衆の故實、仕來る儀なければ、委しくは存候はねども、先申傳侍るは、○中敷皮笠を用意すべし。走笠とて、笠のこしらへやうあり。

〔榮花物語十七音樂二〕この中に法師笠きたる物ぞ、るなか人なめりとみえたる。

〔嬉遊笑覽二器用〕寛延ころの江戸繪に、こも僧を風流に書たるに、美服きたれども、笠いま浪人物もらひの著る、前の處に物見の穴あきたる笠にて、形も裾廣なり、今のこも僧笠、小ぶりにて、上下廣狭なく、深く蒼みたる笠は、寶曆明和の末の頃の畫よりみえたり。

〔我衣〕こも僧ノアミ笠、元祿比マデハ、大ブリニテアサシ、享保ヨリ小ブリニテ深シ、菰僧ノ外カムル人ナシ、

〔守貞漫稿二十九笠〕天蓋○圖

虛無僧、三都トモニ用之、笠ト云ズ、必ズ天蓋ト云、蘭製也、元祿以前大ニシテ淺シ、享保以來小ニシテ深シ、是今ノ形歟、用之者唯菰僧ノミ也、

製天蓋ト同クシテ、大形ノ淺キ物也、○圖今世袖乞ノ浪士用之、其妻女トモニ米錢ヲ乞フ者ハ亦同用之、昔ハ武士潛行ニ用之歟、今世錢ヲ不乞ノ浪士ハ不用之、

〔守貞漫稿二十九笠〕六部ノ笠。

廻國修業者俗ニ六十用之、中央ト周リヲ紺木綿ヲ以テ包之、不損ヲ要ス也、近來乞丐等回國ニ扮シテ門戸ニ米錢ヲ乞フ、質者モ用之、蘭製ノ笠也、

安永ノ圖ニ回國ヲ畫クモノ、此紺布ヲツケタル笠ニ非ズ、然ラバ此笠ヲ用フルコトハ近製歟、再考、此笠ノ中央ニハ、圓形ノ薄板ニ諸神佛ノ名ヲ回書シ、其表ヲ紺綿モテ包ミ覆フト也、故ニ中心ニ鑽アリテ、脱トキハ掛之テ直ニ不置之ト也、然レバ古畫ニ此ヲ描カザルニヨリ、近製歟ト云